

いつくしみ

「親の愛、子知らず」という言葉を知っていますか。

お父さん、お母さんが、どのようにみなさんを愛しておられているか考えて、つぎの空白に書いて下さい。

聖書で繰り返し出てくる事は、神さまが先祖に約束

した事を必ず守るとい言葉です。神さまがイスラエルの民を選んだという聖書の個所で、「契約」と「いつくしみ」を並べて使っているのもこのためです。いつくしみとは、契約を必ず実行するという神さまの愛なのです。

神さまは両親が子どもを罰するように、その民を罰されます。これは決して神さまが誓われた約束を忘れてしまったからではありません。自分の選んだ民を正しく導くためです。神さまのいつくしみとは、ただ人の機嫌をとる事とはちがいます。それは旧約の

イスラエルの歴史を見れば明らかです。たとえ自分が愛された民であっても、又、わざわざエジプトの地から導いて約束の地に入れた民であっても、その地から追い払われるのです。しかし、たとえ民がいましめを守らず、土地から追い出されても、神さまは契約を破る事はしません。

マグニフィカトとして有名なマリアさまの賛歌では「あわれみ」と訳されていますが、イエスさまが神さまから遣わされる事により、神さまが契約に忠実である事をたたえています。この賛歌の中で、神さま

が力のない者を助け、権力ある者をくたく方として描かれています。

神さまはいつくしみを忘れる事がありません。私たちがたとえ忘れてしまっても、神さまはいつも私たちを導いておられるのです。

